

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	令和7年度第1回山口市公共交通委員会
開催日時	令和7年6月5日(木曜日)14:00~15:35
開催場所	山口市役所 庁議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員長、鈴木副委員長 他16名
欠席者	増本委員、徳永委員、大原委員、村上委員
事務局	山口市都市整備部交通政策課
議題	1 令和6年度事業報告・評価について 2 令和6年度決算について 3 令和7年度事業計画について 4 報告事項 5 その他
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1 議事 (1) 令和6年度事業報告・評価について (2) 令和6年度決算について ①歳入歳出決算報告 ②監査報告 承認 (3) 令和7年度事業計画について ①山口市総合時刻表 ②山口市ノーマイカーデー ③パーク・サイクル・アンド・ライド ④車両運転体験会、運転士確保 ⑤公共交通教室 ⑥クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト(MM) ⑦山口市民公共交通週間 承認 質疑応答 ●A委員

皆さん御存じのように、山口市の1世帯当たりのガソリン消費量と、またそれに使った金額というのが長年全国で断トツ1位。また、石油の消費量が世界の中で日本が第6位で、それがペットボトルやチョコレートの原料にもなっているわけで、また、山口市民はチョコレートにもよくお金使っていますから、世界の中でもガソリン、石油をすごく消費しているところだと思います。ノーマイカーデーとか、公共交通週間とか、もっとインパクトのある強烈な目標を立てて、1年中というのはなかなか難しいと思いますから、この期間ぐらいはもっと本当に公共交通を利用する、マイカー社会からの脱却というのをもっとアピールするようなことをしていただきたいと思います。というのが、ちょうどこの時期は、近隣の小中学校の交通移動教室があるんですけれども、警察の方と一緒に回って、近隣の小中学校合計3校の子どもたちに「バスに乗ったことある？」と聞いたら、1人も乗ったことがないということだったんですよ。ですから、交通安全の面だけじゃなくて、「バスというのがどういうものかということも知ったほうがいいよ」という話をさせていただいたんですけど、あまりノーマイカーデーとか、いろいろと山口市はやっていますが、本当に市民に浸透してないんじゃないかなというふうに思いますので、そろそろ、かなり強烈な、例えば、何か賞金を出すということも必要でしょうし、罰則はなかなか難しいと思います。そういったことを考えていただきたいと思っています。

●事務局

委員がおっしゃるとおりでございまして、ノーマイカーデーや公共交通週間について長年取り組んでいますが、近年では成果のほうも横ばいが続いているということで、ある意味マンネリ化している部分も少しあるのかなと思います。そうした中で、インパクトのあるものに、という御提案をいただきましたけれども、皆さんにもいろいろお知恵をいただきながら考えていきたいと考えております。

●委員長

今から来年度に向けて、というような話になりますけれども、また皆さんの知恵を借りて新規事業を考えていくということでございますので、よろしくお願いしたいと思います。

2 報告事項

- (1)第二次山口市市民交通計画の進捗状況について
- (2)コミュニティバス実証運行事業について
- (3)コミュニティタクシー運行促進事業について
- (4)徳地生活バスAIデマンド交通(藤木エリアの組み入れ等)について

- (5)グループタクシー利用促進事業について
- (6)シェアサイクル実証事業について
- (7)バス・タクシー運転士就職奨励金制度について

質疑応答

●B委員

コロナ禍が間にあったとはいえ、非常に厳しい結果だなと考えております。先ほどA委員がおっしゃったように、このままルーティンでいろんな取組を続けていく、維持できているっていうこともそれはそれで成果ではあるんですけども、何かしらまちづくりの考え方ですとか、公共交通についての考え方についての市民の合意といったようなところをもう少し底上げしていく必要があると思っています。具体的に何をするかというと、今年度末ぐらいから次期総合計画の検討が始まると伺ってしまして、再来年もしくは来年度末に恐らく策定されると思うんですけども、10年に1度の非常に大きなチャンスだと思っています。今後この公共交通をどう山口のまちの中で取り入れていくかというところですか、あるいは、この公共交通委員会の事業計画もほとんどツールとしての公共交通をブラッシュアップするっていうところにとどまっているかなと思いますので、事業者間の連携をもっと、鉄道とバスの連携を進めるとか、あるいは、ほかの分野の病院とか教育といったような分野とも連携した取組を進めるとか、そういったきっかけをすぐに作るのは難しいんですけども、総合計画というようなところをきっかけとして何か進めることは可能かなと思います。あるいは、総合計画の策定のプロセスにおいて、各地域を回られるというところがあると思いますので、そこで市民の皆さんとその投資ですとか、まちづくりの方向性といったことについて合意を形成する非常に重要な機会になるかなと思っておりますので、ぜひこの進捗が上向きになるような取組を、来年度すぐに事業になると思っておりませんけれども、是非来年度ないし再来年度にいろいろな事業がつくれるように進めていただければと思います。ぜひ庁内でも合意形成を進めていただければなと期待しております。

●事務局

委員がおっしゃるとおりでございます。かなり目標値から遠い、なかなか厳しいところで、根本的な何かというのをこれから考えていかなければならない。そうした中で、総合計画の策定がいい契機になるんだろうと思います。それと同時に、第二次山口市市民交通計画も令和9年度で現状のものが計画期間を終えますので、来年度ぐらいから実際に新しい計画の策定に向けて動き出していきたいと考えております。そうした中で、またいろいろ根本的なと

ころで物事が動いていくような取組というのでも少し考えていきたいと考えております。

●A委員

2点ございます。1点は報告事項に対する補足ですから回答は必要ありません。まず山口市コミュニティバス実証運行の状況についてです。こちらは平成13年からということになりますけど、2年間の実証運行で50%未満を切ったら廃止をするということが、当時の山口市公共まちづくり委員会の議事録に出ております。また、バスの最低人数は何人ですかとお聞きした際、最低9人ですという御回答をいただいております。それをもとに、この表を見ていただきたいと思いますけれども、ただ当時の山口市営バスというのは年間10億円の赤字でそれを補填していこうということで、当時の市議会でOKが出たということで、累積赤字としては山口市が発表しているものと、当時の山大的先生が調査された金額とは随分乖離しておりました。山大的先生の数字は忘れましたが、累積赤字が2百数十億円ということでしたから、市営バスが廃止になったので、この山口市のコミュニティバスやコミュニティタクシー等に少々お金を使っても、10億円ずつ毎年払っていくよりは安く済んでいるんだろうなと思います。これは御回答はいりません。

それから、15ページのシェアサイクルについて、こちらは要望です。警察の方がおられる前と言うのもなんですけど、一応交通安全協会として発言します。自転車について、昨年11月から法律的に随分厳しくなっておりますけれども、結構マナーの悪い人が多いわけです。法律自体を御存じないで運転されている方も随分おられます。自転車は車ですから、例えば、13歳未満、それから70歳以上の方、身障者の方は別として、歩道の標識や標示がある場合は、自転車は歩道を通行してもいいんですけど、それ以外のときは、歩道を通行してはいけないという法律があります。これに関してもシェアサイクルをどんどん実施していくのはいいですけど、もうちょっと法律面、マナー面をきちんと徹底していただいた方に利用していただくようにしていただきたいと思います。

●事務局

2点目のシェアサイクルに関しましてですけれども、ヘルメットに関しましては自転車にはつけてないのですが、観光案内所等に配置をしてぜひかぶってくださいということで御案内をさせていただいております。また、交通マナーの話については、我々が利用者に接する機会がなかなかないというところもありますので、パンフレットやウェブサイトで御案内ができるようであれば、そういう対応をしてまいりたいと考えております。

●委員長

やはり交通安全の面はとても大事です。また取り締まりがきつくなったということも当然ありますので、そうしたことについては、交通安全のサイドの方とも連携しながら、こういった形で周知が図れるか、ポータルに注意喚起を載せるといったことをやっていきたいと思います。

●副委員長

総括になるかどうか分かりませんが、今回、公共交通委員会として行ってきた事業、それから、市が行う事業等についての実績と報告をされたわけです。一つひとつをとってみると、例えば数字だけを聞くとあまり大した、聞こえは大してよくない、例えば、運転士確保の事業をやって3人就業したとか、それから、置くとバス駐車場をやって数回の利用が認められたとか、数字だけ聞くと、あまり大したことはやってないように聞こえるんですけども、ただ、こういうものというのは、すぐに莫大な効果が出るような性格のものではもともとないので、やはり一つは長い目である程度見ていかなければいけない。もう一つは、プラスの効果が出たことで一つの実績となる面があるということとは認識しておくべきだろうなと思っています。それこそ、置くとバス駐車場みたいなものは、これまでそういう習慣のなかった、地域の中だけ自家用車で動いて、広域に動くときにはバスに乗り換えましょうみたいなのは、これまでの生活習慣の中にはなかった行動なわけですから、これが定着するのにはやっぱり相当な時間がかかる。そういう中で、それぞれの場所で数回ずつそういう効果が出てきたというのはやはり私は大きな効果だろうと思いますし、これがまた口コミやなんかも含めて、徐々に拡大していくのであれば、それは一つひとつ次につながっていくことだろうと思います。これは、運転士体験会を通じての採用等についても同じことが言えるのではないかなと思いますので、そういう意味で、長い目で見ていくべきで、一つひとつは小さくても長い目で見ていくべきことというのは、そういう評価をしていく必要があるかなと思います。

一方で、B委員からも御指摘があったように、目標値に対する実績は全体的に見るとやはり厳しいのは事実です。このあたりは、それこそ先ほどA委員から御意見があったように、少し強烈的な施策を展開していくか、あるいは、過去いろいろやってきてはいるので、これを的確に継続してやっていくということも必要かなと思っています。例えば呼びかけ方ですけども、過去10年、20年ぐらいの間に2回ぐらい、市民の方に車にどのくらいお金かけていますかと、車1台持っているだけでこれだけのお金がかかってますよと、一方で公共交通はこうですよ、というような見せ方をしたことがあるはずですよ。こういうのは1回やって終わりじゃなくて、毎年やらなくてもいいんですけども、一定の間隔を置いてそういう訴えかけをしていく必要もあるんじゃないかなと思

います。それから、これは山口でやってないかもしれません。私は何箇所ですらそうしたことをちょっと呼びかけをしているんですけども、車は必要だし、車がなければ困る面もあるのは間違いないので、車を否定するわけじゃないけれども、例えば一家に1台の車で何とかやっていけませんかと。さっきのお金の問題と関連する話なんですけど、一家に1台の車というのを実践しませんかみたいな呼びかけをしている場所もあります。こういうこともある程度継続してやっていくことによって、少しはそういう意識が生まれてくる面はあるし、それからだんだん若い人が免許取らなくなったり、車を持たなくなったりしている傾向が事実としてあるので、そういう中で言えば、そんな呼びかけ方もありかなと思っています。ですから、そういう意味を含めて、A委員の言われる、強烈な施策を突っ込んでいくっていうことが私は必要だと思っています。ノーマイカーデーがマンネリになりかけたところで、今回「プラス」というのを打ち出してきたのは、これは一つのあり方だと思いますけど、もう少し強烈なものがあってもいいかなと私も思います。それから、コミュニティバスの実証実験が25年間続いているというのは確かにあるんですけど、山口市は2000年代の半ばぐらいからずっと様々な取組をしてきました。ただ、この20年ぐらいの間というのは、交通を取り巻く環境もどんどん変わっていますので、その一つの表れが、いわゆる担い手の不足ということでもあり、そういった変化をしてきたことを検証して、それに合わせて次の手を打っていくということも必要なので、これまでにやってきたことを評価しつつ、環境変化があったことに対してどう対応していくかといったようなところも、やってはいるんだと思うんです。が、そのところがこの報告の中で見えにくいという気もします。例えば、藤木のコミュニティタクシーが今までの形の中ではやっていけなくなって、今回、そのAIデマンドの中に取り込むというのも、これも一つはそういった20年間の間の環境変化の中で、結果としてそういった事情が変わっていったという部分があるわけです。この辺は説明をし、そういう変化に対応し、どういう変化に対応してどういうふうな施策に変えていったかというあたりの説明をもう少し丁寧にしたほうがいいかなと思いました。同じようにいろんなところで、例えば公共交通を利用する年齢層であったり、例えば、利用者に占める高齢者の比率がより多くなってきたことによって、バスの乗降に非常に時間がかかるようになってきたと。それによって20年前に組んだダイヤが通用しなくなって遅延が生じるといったようなケースが今になって全国的な課題になってきました。そういったことへの対応も今後考えていかなければならなくて、そういう環境変化をいかに敏感に感じ取って対応を考えていくかといったようなこともこれから必要になってくるだろうと思いますので、じっくりと検証しながらやっていただければと思います。いずれにしても、担い手を含め、資源が限られていることはもう目に見えてきているわけですから、その中でいかにその資源を有効活用して、より最適なものにし

ていくかというのはこれからの非常に大きな命題だと思いますので、そういう意味で、先ほどB委員からもあった事業者間の連携などについて、私もいろいろ考えていることがあって、今後提案していく部分もあろうかと思いますが、そういった取組についても御検討いただければと思います。

●C委員

副委員長が総括した後にしゃべるっていうのはあんまりよくないんですけど、違う言い方で発言したいと思っています。意見は一つです。先ほど、インパクトとか、どうするのかという話がありました。私たちの社会は、というか山口市は、私たちがこの施策を展開する以上にどんどん人口減少が進んで、この施策を超えてしまっているのではないかという気がしています。先ほど、B委員から、次期総合計画の中でしっかり考えようという議論があったと思います。山口市は、どんなまちにしたいのかということを、交通政策の面からきちっと考え直すというのは、総合政策部で考えてではなく、こっちのほうからきちっと考えるっていうことが重要なことではないかと思います。考えておられる副市長の前で大変失礼ですが、人口減の中で、どんなまちにするのか。先ほどA委員から話がありましたが、コミバスはもう追いついていない問題かもしれません、はっきりやめたほうがいいのかもかもしれません。そのこともきちっと考えて。やめる、やめないの問題じゃないんです。どんなまちにしていくなのか、これで本当によいのか、大丈夫なのかという問題です。あと10年。コミタクだってこれだけ頑張っつつくってきたけど、追いつかないのならやめちゃうってこともありますよ。ではどうするのか。そのためには、やるかやらないかじゃなくて、どんなまちにしていくなのかということをちゃんと打ち出さなければいけないと思うんです。人口減の中でも、例えば、誰も取り残さないということをきちっと決めていくのであれば、市営タクシーにしてもいいんですよ。やりますよと。予算はまたですけど。でもそういうことも含めて考えないといけない。言いたいことは、これから10年、どんなまちにするのかということをきちっと考えた交通施策を、担当部局のほうから総合政策部のほうに物を申さねばならないということを言っているんです。考えてみますと、山口市に最初に来たときに、「何と車に優しいまちだ」と思いました。こんな立派な地下道がいっぱいあるまちはないですよ。車を走りやすくするために立派な地下道に物すごくお金をかけてつくっている。でも自転車は滅茶苦茶走りにくい。旧国道の歩道は本当にどうしようもない。あんなところに自転車で行けるか。歩いても、下に行って上に行ってと行かないといけない。とんでもないまちだと思いました。つまり、交通政策だけではなく、実は道路のあり方、ここにも担当がたくさん来られているわけですから、あんなやり方でいつまでやっているのか。地下道の維持だって結構お金がかかっている。本当にこれでいいのか。国の道路関係の方はここに来ておられるし、県の方も来られているし、

市の方も土木の専門家、技術者もいるわけです。高齢化、人口減の中で、人が歩いたり、自転車を使ったりをきちんと区別するようにするにはどうしたらいいのか。過疎地でも誰も取り残さないようにするにはどうしたらいいのか。その方向性を、交通の面から問い直すようなことをみんなで考えていかなければならないのではないかと。このままでいいというわけにはいかない。コミバスをやめてしまうというのも一つの方法かもしれないし、ひょっとすれば、頑張ってきたコミタクをやめてしまう、無理だったらやめてしまうっていうのは一つの施策かもしれません。人口減の中で、このまちをどんなまちにしていけるのか。そのことを今きちんと考えなかったら、次の計画に何をたてても、恐らく10年以内うまくいかないと思います。このぐらいの考え方をしたほうがいいのではないかと、これは副委員長、B委員とも言われたことです。そのぐらいの覚悟で進めていかないといけないと、とても危機感を持っています。

●委員長

次の総合計画が令和10年から令和19年までの10年間となります。その10年後の山口市の姿がどうなのかというのをしっかりと見定めて、それに必要なまちづくりをしていくといったことを皆さんで議論しながらつくっていく総合計画になると思いますので、今先生方が言われた思いをしっかりと持って、公共交通の担当のほうからもしっかりと意見を言っていきたいと思っています。

3 その他

●事務局

事務局から「交通空白」解消に向けた取組について報告させていただきます。この資料は「交通空白」解消に向けたこれまでと今後の対応という見出しのものです。これは国土交通省でつくられた資料になります。全国的に「地域の足」、「観光の足」の確保が求められている中で、昨年度国土交通省では、「交通空白」解消本部を立ち上げられました。この解消本部と「交通空白」解消・官民連携プラットフォームを両輪といたしまして、「交通空白」解消に向けた取組を強力に推進されておられます。こうした動きを受けまして、山口市においても官民が連携しての「交通空白」解消に向けて、このたびこの官民連携プラットフォームに入会をいたしました。2ページ目が現在の全国の4月14日時点の加入状況となっております。今後、国による総合的な後押しをいただきながら、「交通空白」解消に取り組んでまいりたいと考えております。こうした中、3ページ以降にございますように、今年度に入りまして、JR西日本、そして8ページ目にあります「やまぐちTAXIアプリ運営協議会」がそれぞれ主体となって、山口市をフィールドに取り組まれる事業が、このたび国の事業採択を受けられましたので、ここで御紹介をいたします。運輸支

局、JR西日本から委員の御出席いただいておりますので、この点について何か補足がございましたらお願いします。

●D委員代理

運輸支局といたしましても、自治体、交通事業者の方々と協力しまして、「交通空白」解消に向けて取り組んでまいります。山口市にも会員になっていただいております「交通空白」解消・官民連携プラットフォームにつきましては、「交通空白」に係る困りごとを抱える自治体、交通事業者等様々な資源を持つ幅広い分野の企業・団体の連携・協働体制を構築し、「交通空白」解消に向けた、実効性かつ持続可能性のある取組を全国規模で推進するため設立されました。自治体や交通事業者との連携・協働の後押し、自治体、参加企業等が連携・協働して取り組む実証実験の展開など、「交通空白」の解消に向けて取組を全国規模で推進してまいります。また、「やまぐちTAXIアプリ運営協議会」が取り組まれる配車アプリによる受付配車、地域関係者と連携したアプリの周知などにつきましては、人手不足の中、効率的な配車を実現し、利用者利便の向上に寄与するものであると存じます。国土交通省では、このたび「交通空白」解消等リ・デザイン全国展開プロジェクトにおいて、官民、交通事業者、他分野など複数の主体が協働して行う取組を支援する「共創モデル実証運行事業」として事業採択させていただき、本取組について支援させていただくことになりましたので、引き続きよろしくお願いいたします。

●E委員

Eと申します。今回のMaaSアプリということで、どんなアプリを使ってやるのかということですが、お手元に「山口市総合時刻表」が配られていると思いますが、ここにJR西日本の移動生活ナビアプリ「WESTER」というものがございいます。ぜひダウンロードしていただければと思うんですが、ここの経路検索機能を使って、新山口駅と湯田温泉駅と山口駅のいずれかを目的地としてもらったときに、先ほど御紹介がありました「やまぐちTAXIアプリ」や、新山口から長門までのタクシーのデマンド運行の予約が同アプリ内でできるというものでございいます。よい予約システムがあるのに、なかなか認知度がないということで、経路検索のときに予約ができれば一番いいだろうと。今このアプリの開発をしている最中でございいます。2026年秋に「山口DC」という観光キャンペーンがあるんですけども、この秋にプレキャンペーンを行いますので、それまでに開発を進めて使用できるように準備を進めている次第でございいます。

●事務局

もう1点、委員の皆様に関後の本委員会開催についてお知らせがございます。

資料はございませんが、口頭で説明させていただきます。本日、こうして皆様に集まっていたく形式での開催は、今年度あと1回、時期としては年明けの1月の終わり頃を予定しております。これとは別に、昨年度もございました書面開催による委員会というものを見込んでおります。その理由といたしましては、現在、バス事業者におかれましては、乗合バス等の補助制度である、先ほども出ました、国の補助事業である地域公共交通確保維持事業の令和8年度の申請に向けて、バス事業者で申請内容を整理いただいているところでございます。この申請に際しましては、この公共交通委員会における協議の手続きを経て、国に提出する必要があるということが昨年度から決められまして、そのような形で昨年度も書面開催を行っております。そして、早々の話になりますが、今回この本委員会における協議の手続きについて今月中にしておかないといけない案件がございまして、今月20日以降ぐらいに行うこととしております。ただし、会議資料の作成から会議開催まで期間等に余裕がないことなどもございまして、申し訳ございませんが、昨年度と同様、書面開催としたいと考えております。委員の皆様におかれましては、御多用のところ恐れ入りますが、よろしくお願いいたします。

●委員長

書面開催ということになりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは今日の会議を通して、皆様からこれを言っておきたいといったことがあれば、ここでお伺いします。

●C委員

資料13ページのご意見・ご要望の中の Google マップについて、重要な防長交通の情報が、ヴァル研究所の経路検索にも入っていないという状況が今も続いているということはないと思いますが、念のために聞いておきたいと思います。

●F委員

Google マップに関して、Google へ昨年3月下旬に GTFS データの登録申請を行っておりますが、それから1年3か月ぐらい経っている中、未だにその登録がなされていない状況です。現時点においても Google とのやりとりが続いているという状態です。ここ最近のやりとりの内容としては、バス停の位置情報、移動経路が Google の基準に合わないところもあるということで、当社から移動経路のデータをお渡しして、Google で1つひとつチェックされているようなんですが、その位置にずれが生じているということで、それ

がずっと続いています。手続きは当社が直接行っているのではなくて、GTF Sの作成を委託しているナビタイムにやりとりをしていただいています。現在、初回の登録ができていない状態です。いつごろ登録されるのかという見込みもない。全く何もしていないという訳ではございません。

ヴァル研究所にはデータをお渡ししています。ヴァル研究所にもナビタイムにも、もう1社にもデータはお渡ししています。

●委員長

なかなか難しい手続きもあるのかなと思います。ほかにありますか。

●副委員長

これは事務局へお願いなんですけど、公共交通ふれあいフェスタがほかのイベントと抱き合わせということで先ほど報告がありました。それはそれで事情は理解しているんですけど、単純にそのほかのイベントの中にブース出展ですよというだけだと、「公共交通」というものがイベントの中から抜け落ちてしまいがちで、オーガニック&ナチュラルライフガーデンフェアというだけだと、「公共交通」が全く表に出てこないの、何らかの形で公共交通に関連するイベントもここでブースが出て何かやってるよ、というあたりが分かるような調整をぜひ主催者側としていただければと思います。よろしくお願いします。

●事務局

残念ながら今年度からは公共交通ふれあいフェスタというのは、市役所のほかの課が主催するイベントの中でブース出展という形で対応してまいりたいと考えておりますが、今おっしゃられた公共交通をそのイベントでやっているというところにつきましては、主催する課とこれから調整をしてまいりまして、何らかの形で残していきたいと思ひますし、ブース出展の中身に関しましてもしっかり周知をして、公共交通をやっているところをPRしていきたいと考えております。

●委員長

今のは、環境の面でのくくりでできるんじゃないかと思ひますし、いろいろ考えていただきたいと思ひます。

ほかに御意見ございますでしょうか。なければ、これをもちまして、本日の会議を終了し、事務局のほうにお返しします。よろしくお願いします。

●事務局

長時間にわたり御審議頂きまして、ありがとうございます。以上をもちま

	して、令和7年度第1回山口市公共交通委員会を終了させていただきます。 本日は大変お疲れさまでした。
会議資料	令和7年度(第1回)山口市公共交通委員会議事次第 他
問い合わせ先	都市整備部 交通政策課 TEL 083-934-2729